

育ちと学びをつなぐ就学前教育充実事業

本年3月に改訂する、鳥取県の幼児教育の方向性等を示した「鳥取県幼児教育振興プログラム」では、5つのプログラム推進の柱を定めています。その柱のひとつに「小学校教育との連携推進」があり、幼稚園・保育所と小学校教職員の相互理解を進めることにしています。

鳥取県では、平成19年度より、小学校教員の幼稚園・保育所における長期社会体験研修を実施しており、今年度は7名の小学校教員が保育所で保育体験研修に取り組んでいます。ここでは、八頭町、三朝町、南部町の取組を紹介します。

八頭町

特別支援教育に視点を置いて

八頭町では0～15歳までの全ての子どもの健全育成を重点目標に掲げ、特別な支援を必要とする子どもに対する支援を、保育所から小学校へつなぐ取組を進めています。

長期社会体験研修生は、町の5歳児健診や小集団指導、保育所における障がいの状況に応じた具体的な支援のあり方を学んでいます。小学校教員が、幼児期の発達や保育所における特別支援教育について理解を深めることは、小学校への移行支援の充実のために大切なポイントです。

全ての子どもたちが、小学校入学後に、自信を持って生活できるよう、研修の成果を小学校教育に生かしていきたいと考えています。



3歳児と一緒に積み木遊び

プログラムの推進の柱

- 1 幼児教育・保育の充実
- 2 教員・保育士等の資質の向上
- 3 小学校教育との連携推進
- 4 子育て・親育ち支援の充実
- 5 地域で支える幼児教育の推進

三朝町

保小をつなぐキーパーソンとして

長期社会体験研修生が保育園と小学校をつなぐ役割を果たしています。職員や保護者向けの便りの発行、子ども同士の交流の見直し等に取り組み、園全体、学校全体としての保小連携体制づくりが進んでいます。教職員による保育・授業相互参観の機会や参加体制が充実し、相互理解が進むとともに連携の必要性に対する意識が高まっています。また、小学校教員の保育園懇談会への参加等、保育園の保護者が小学校生活への安心感を持つ取組なども行っています。

スタートカリキュラムなどの研修の成果を町全体へ広げていきたいと考えています。



幼児と児童のプール交流

南部町

長期社会体験研修を全町の取組に

長期社会体験研修の成果を町内全ての小学校・保育園に広げています。保小連携の会、保育参加体験・授業参加体験、年間計画・指導案を作成して行った保小交流活動など全町への連携体制づくりが進みました。

また、長期社会体験研修生の研究保育に町内全保育園・小学校、教育委員会・保育担当課が参加し協議したことで、保育園から小学校への接続について考える機会となりました。

さらに町教育委員会は、町内全小中学校・保育園への保小だけでなく長期社会体験研修レポートの送付などを通して、保小連携のみならず中学校との連携の重要性も積極的に発信しています。



町内全保育園・小学校、行政関係者による保育実践をもとにした研究協議

問合せ先 県教委小中学校課 電話 0857(26)7512

ご存知ですか?

脳脊髄液減少症

脳脊髄液減少症(のうせきすいえきげんしょうしょう)をご存知でしょうか?

交通事故やスポーツ外傷等の後に、脳を覆う硬膜に穴があき、脳と脊髄の周囲を循環している脳脊髄液が漏れ出して減少することによって脳の位置が下がり、起立性頭痛(立位によって増強する頭痛)などの頭痛、頸部痛、めまい、不眠、記憶障害などの症状が現れるものです。

厚生労働省による統一診断基準が23年度に示され、平成24年6月から先進医療の治療が開始されている病気です。

各学校においては、事故が発生した後、児童生徒等に頭痛やめまい等の症状が見られる場合には、安静を保ちつつ医療機関で受診をさせたり、保護者に連絡して医療機関の受診を促す等適切な対応がなされるよう文書を通じてお願いしているところです。

事故の後遺症として通常の学校生活を送ることに支障が生じているにも関わらず、周囲の人にはこの病気の症状が分かりにくいことから、単に怠惰である等の批判を受け、十分な理解が得られない事例があるとも指摘されています。

脳脊髄液減少症に関わらず、病気等により学校生活に管理や生活制限が必要な子どもたちはたくさんいます。そういった子どもたちが、安心して学校生活を送るためには、周囲の子どもたちをはじめ、教職員、保護者の方の理解と支援が必要です。全ての子どもたち一人ひとりが大切にされる学習環境をつくるためのご理解とご支援を今後ともお願いします。

参考 脳脊髄液減少症に関する県内の相談機関、診断・治療可能な医療機関等

県内の相談窓口

東部総合事務所福祉保健局(鳥取保健所)	
鳥取市江津730	電話 0857(22)5694
中部総合事務所福祉保健局(倉吉保健所)	
倉吉市東蔵城町2	電話 0858(23)3143
西部総合事務所福祉保健局(米子保健所)	
米子市東福原1-1-45	電話 0859(31)9317

県内の「脳脊髄液減少症」診断・治療可能な医療機関
生協病院、中央病院、厚生病院、新田外科胃腸科医院、鳥取大学医学部附属病院

その他脳脊髄液減少症に関する情報

鳥取県福祉保健部健康医療局健康政策課HP
<http://www.pref.tottori.lg.jp/dd.aspx?menuid=87261>

問合せ先 県教委スポーツ健康教育課 電話 0857(26)7527

シリーズ 鳥取県のエキスパート教員

鳥取県では、優れた教育実践を行っている教員を「エキスパート教員」として認定し、教職員全体の指導力向上を図っています。今回は、境港市立外江小学校の門脇佳恵教諭(認定分野:国語)にお話を伺いました。

言葉の力を付ける授業づくりを

授業では、子どもたちの実態とその時間でめざす姿とを考え合わせ、どんな言葉の力を身につけさせるのか、そのためにはどんな活動をどこで組むと効果的なのかをしっかりと考えます。これは、子どもたちが目的意識や見通しを持って学習することに役立ち、進んで学ぶ姿勢を育てることにつながっています。



自分とかわらせて

言葉には、自らの考えを深め、豊かな心を育み、よりよいコミュニケーションを生み出すという大切な役割があります。その役割をしっかりと認識し、国語科の学習が子どもたち自身の日常生活へと広がっていくように指導しています。例えば、説明文の学習では、自分の知識や経験、考えなどと関係付けながら、書かれている意見について意識して読むことで、自分の考えが明確になります。

学び合いをとおして

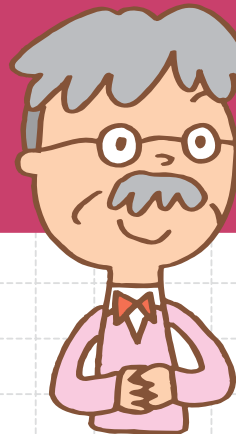
子どもたちが気付いたことを話し合ったり、書いたりする場を大切にしています。中でも、話し合いは子どもたちも大好きな活動です。ペアや班、学習の中で設定する子どもたちの専門家チーム、全体での話し合いなど、相手や人数を変えて話し合うことで話し方が変わり、質問されたりほめられたりする機会になります。気付かなかった意見や分かりやすい説明に出会い、自分の読みや考えが深まったり広がったりします。自信が芽生え、主体的な学びへと変わる瞬間が、子どもたちにとっての学びの醍醐味だと考えています。

友だちとの学び合いをとおして、自分らしく言葉の力を磨いていってほしいと願っています。

問合せ先 県教委小中学校課 電話 0857(26)7512

シリーズ プロ(文化財主事)が教える文化遺産のツボ!

第7回 織田信長が鳥取城に来た!?



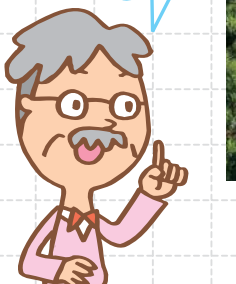
カメ・カエル…ときたので、今回はサル。といっても、サルと呼ばれていた人、豊臣秀吉(当時は羽柴秀吉)のことから話を始めましょう。秀吉が天正8・9年(1580・81年)の2度にわたって鳥取城を攻めに来たことはご存知の方も多いでしょう。

第1次鳥取城攻めの際、城主山名豊国(やまなぶくに)の降伏で一度は織田方となった鳥取城ですが、その後毛利勢(吉川元春)が勢いを盛り返してくると、山名の家臣たちは城主を追放し、毛利に味方することにしました。そして新たな城主として吉川経家を迎え入れました。これに対し、翌年の天正9年6月、再び秀吉がやってきて繰り広げられた戦いが、いわゆる「鳥取城の渴え殺し」といわれた兵糧攻めです。このときには秀吉に仕える名だたる武将が鳥取城を囲み、この中には来年のNHK大河ドラマの主人公となる黒田孝高(官兵衛)もいました。



吉川経家の銅像

経家公は今、武道館の横にたたずみ、武術に励む人々を見守っているんじゃないか。



ところでこの戦いに、あの織田信長が参陣しようとしていたことをご存じでしたか?

当時の信長の様子を記した「信長公記」によると、秀吉が鳥取城から7・8町隔てた太閤ヶ平に城をつくり、ここを「大將軍」の居城とした、とされています。秀吉にとっての「大將軍」にあたる人といえば、主人である信長以外には考えられません。事実、8月には信長自らが鳥取に出陣するつもりで、その前に明智光秀などに陣の準備をするよう命令しています。このため、秀吉は鳥取城のある久松山東側に位置する本陣山(太閤ヶ平)に陣を構え、その頂上部には最大の高さ5mにもなる土塁とその外側をぐるりと囲む堀という、非常に堅い守りの郭を築きました。この跡は現在でも非常によい状態で残っていると同時に、ここからは鳥取城をよく見ることができ、当時のにらみ合っていた緊迫感を今に伝えています。

歴史に「もし」はありませんが、この太閤ヶ平に信長がきていたら、鳥取城の攻め方も、さらにはこの翌年の、あの「本能寺の変」さえも起こらなかったかもしれません。

問合せ先 県教委文化財課 電話 0857(26)7934

鳥取県の文化財情報HP(とっとり文化財ナビ)
<http://db.pref.tottori.jp/bunkazainavi.nsf/index.htm>

家庭教育推進協力企業では、職場行事や地域活動等に親子で参加し、子どもたちの体験活動を広げる活動に取り組んでいます。

子どもの体験活動を広げよう ~職場行事への参加~

尾崎病院
職場で行われる運動会や夏祭りに参加しました。親子種目では、職員の家族同士の交流もあり、気持ちのよい汗をかけた。傘踊りに挑戦したりして、楽しい時間を過ごしました。



備中屋本店
いも掘りとバーベキューの野外研修会に、家族ぐるみで参加しました。いもの掘り方の説明を聞いたあと、みんなで力を合わせて掘りました。どんないもが出てくるかわくわくしながら掘りました。



鳥取県中央農業協同組合
職場の地引き網に、家族で参加しました。普段あまり見ることがない珍しい魚もいました。夏の海でおもいっきり力を込めて網を引き、親子の楽しい思い出ができました。



1月現在、545社と協定を結び、子育てしやすい職場環境づくりを進めています。事業所からの申込は随時受け付けています。

申込・問合せ先 県教委家庭・地域教育課 電話 0857(26)7521 FAX 0857(26)8175
Email:kateichiiki@pref.tottori.jp

シリーズ「家庭教育推進協力企業」の活動レポート